

澄んだ瞳

第70号
令和3年3月号

発行
相生市教育委員会
相生市人権教育研究協議会

「人権文化」をすすめよう！
かていたいわ たいせつ

家庭対話を大切に

「人権文化」とは

日常生活の中で、お互いの人権を尊重
すること、自然に感じたり、考えたり、
行動することが「当たり前」になった生活
をいいます。

「人権のいみ」

ぼくは、人権のいみがわかりません。お
とうさんとおかあさんとおにいちゃんにき
きました。でもむずかしくてよくわかりませ
んでした。
「一つわかったことがあります。人のわる口
やいやなことをしてはいけないということ
です。ぼくは、いじめのいみがわからなかっ

けど、こういことがいじめな
んだとしました。

これからは、じぶんがされて
いやなことは、ともだちにも
せつたいにしないようにし
ようと思いました。

(小学2年生)



「『おにいよ ねずみくん』を見て」

ねずみくんへ

さいしよ、くまぐんにいちごを分けてもら
えなかったのが、「自分が声が小さいからだ
めなんだ。」と思っていたね。

次に、まきをちよっとしかもてなくて、
「体が小さくてだめなんだ。」って言ってい
たね。

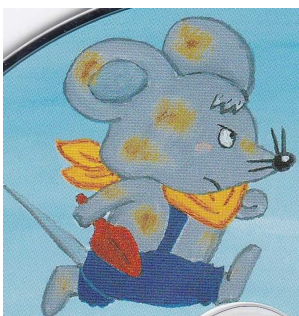
「グズでドジで小さくて。」と言っていた
ね。

でも、わたしは、小さいけど、友だちをた
すける力があっていいねずみだと思った
よ。

つぎそんなことがあっても、いっしょうけ
んめいあきらめずに、
がんばってね。

わたしは、やさしい
ねずみだと思いまし
た。

(小学2年生)



「大切な友だち」

わたしがれんらくちょうをかいていると、友だちが「とっても字がキレイだね。」とほめてくれました。「まってるときは、」とうしたの。「って心配して話を聞いてくれます。」

友だちと遊んでいるとつい笑顔になってしまいます。友だちといるだけでとても楽しいです。おもしろい話や楽しい話をしてくれます。

放校後もたくさん遊びます。友だちとい



わたしの友だちは、みんながうれしいと思うことはばかり言ってくれます。こんな友だちにたくさんであえてよかったです。

(小学3年生)

「ありがとうの言葉」



そうじの時間、雨でろう下がぬれていたので、そうじをやらなくていいかなと思いました。

でもやっておうと思っそうじをしていると、先生が「ろう下がぬれているけどきれいにしてくれてありがとう。」と言ってくれました。

私は、ありがとうと言われてうれしくなりました。私は、「ありがとう」という言葉だけで人の気持ちは変わるのだと気づきました。

今度は自分が「ありがとう」と言っ、みんなにも私と同じようにうれしい気持ちになっほしいと思います。

(小学4年生)

「朝がくるよ」

ぼくは今日の道徳の時間にまどみちおさんの「朝がくると」という詩を読みました。「ぼくが作ったのでもない」という何度もくり返してくる文を読んで、いろいろな人にささえてもらっているからこそ、ぼくがいるんだなと思いました。ふだんではこんなことを考えてもみなかったけど、当たり前にごしている毎日は当たり前でないことに気づきました。



ぼくはこれからかんしゃの気持ちをもっていきたいです。それと、どんな人にもやさしくしていききたいです。

(小学4年生)

「私の自まんのお姉ちゃん!!」

私には、中学三年生のお姉ちゃんがい



私は、悲しくて、ねむれない時がありました。その時泣いていたらお姉ちゃんがきて、「大丈夫!!」と言って一緒にねてくれました。お姉ちゃんが優しくはげましてくれたので、私は落ち着いてねむれました。

いつもは、あんまり優しくないのに、悲しんだり、泣いたりしたらとっても優しくはげましてくれます。その優しいお姉ちゃんが、私の自まんのお姉ちゃんです。

(小学4年生)

「小説家になりたい」

私は将来、小説家になりたいと思っています。

本って、直接誰かの助けにはなれないけど、私は助けられてきて、笑顔になれたから。

ら。

読んだ人にちゃんと内容が伝わって、思わず誰かにすすめたくなる、そんな文章を書くために、たくさんの言葉を学んで、その言葉を使いこなせるようにしたい。

正しい知識を持って正しいことを書く



(伝える)のために、たくさんのこと、一つにかたよらずたくさんの教科をちゃんと学んでいきたい。

(中学1年生)

「言葉の大切さ」

私には、大好きな仲間がいます。

私は、小学生の時、バレーボールクラブに入部していました。そこは、学年も学校も違う、いろいろな人達がいきました。私の学年は同じ小学校と違う校区の友達がいきました。

初めてのバレーの試合で、サーブが入らなかった時、せめられるのではなく、「大丈夫次は入るよ。」とはげましの言葉をかけてもらった



事で、次は頑張ろうと思った事があります。友達のはげましの言葉で、私が勇気をも

らえたので、私の周りで困った人がいれば、私も、はげましの言葉をかけ、その言葉で誰かが元気になってくれたらいいなと思います。

相手を思いやり、傷つけないように言葉遣いに気をつけて、楽しい学校生活をおくりたいです。

(中学1年生)

「私の恩師」

中学一年生の頃からだんだんと学校に行けなくなり、二年生の時には、担任の先生

毎日のように電話をかけてきてくれて、いろんな話をしました。その時、先生からかけもらった言葉の数々は、私の心に深く刻まれており、今の私の支えとなっています。担任していただいたのは一年間だけでしたが、私にとってかけがえのない恩人だと思っています。

その先生との出会いがあったからこそ、今の高校で頑張っていると思います。中学校ではほとんど学校に行っていなかったのですが、勉強



についていけなかったのですが、高校では授業もしっかりと受け、資格取得にも力を入れています。高校では多くの新しい経験をしたり、大変なこともあったりしましたが、心折れることもなく頑張ってきたのは、中学校での失敗を繰り返したくなかったのと先生にかけてもらった言葉のおかげだと思っています。これからも先生の言葉を忘れずに、よりよい生き方を見つけていきたいと思っています。

(高校3年生)

「働く」の意味

私は今、定時制高校の四年生です。

二年生の時から昼間はスーパーで働いています。働き出して一年が過ぎた頃、慣れから心の緩みが生まれ、仕事を休むことが増えていきました。そんなある日、店長さんから「あなたは何のために働いているのですか」と聞かれ、改めて働くことの意味を考えました。

そして、自分の無責任な行動で周りの人たちに迷惑をかけてしまうこと、親を助けたいと思って仕事を始めたことを思い出しました。

店長さんからは「社会人になると、叱ってくれる人はいなくなるよ。」とも言われました。

た。本当にその通りだと思い、それから二度と同じ失敗を繰り返さないよう頑張っています。

最近ではコロナウイルスの影響で仕事も大変になりました。



だが、お客さんから「頑張ってくれてありがとう。」と言われる時はとても嬉しい気持ちになります。

仕事は大変でつらいこともありますが、だからこそ楽しいと感じられる充実した場所です。仕事と学校という生活もあと少しですが、ここで学んだことを今後の人生の糧としていきたいです。

(高校4年生)

かていたいわ 家庭対話



心と心を受けとめ合う会話、肌と肌で感じるぬくもりのあるふれ合い。安心して、お互いの気持ちを話し合う場所が家庭です。話をゆつくと聞き合う機会が少なくなってきたと言われます。

家庭は人権文化の最前線とも言われます。家庭で一緒に過ごす時間が増えた今、あたたかい家族の関係をみんなで育んでいきたいですね。